

# 紫雲寺商工会 平成30年度 下期景況調査報告書

## 1. 調査要領

### (1) 調査対象

- ア 対象地区 紫雲寺商工会地区内小規模事業者  
イ 調査企業数 15 事業所 (うち小規模事業者数 15 事業所)  
ウ 回答企業数 15 事業所 (うち小規模事業者数 15 事業所)  
(回答率 100.0%)

### (2) 調査対象期間

- 平成30年7月～平成30年12月  
(調査時点 平成30年12月1日)

### (3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

### (4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	1	6.7%	1	6.7%
建設業	4	26.7%	4	26.7%
卸・小売業	3	20.0%	3	20.0%
サービス業	7	46.7%	7	46.7%
合計	15	100.0%	15	100.0%

## 2. 地域内産業全体の景況概要

補助金等の活用による販促活動や消費者のニーズに沿った新サービスを展開したことで、売上が増加傾向にある事業所も一部で見受けられたが、仕入単価の上昇により、結果として採算が取れていないといった声が多く寄せられた。今後も少子高齢化・若年層の流出により地域の市場は縮小し、受注・販売は減少傾向にある中、消費税増税が消費の低迷にさらに追い打ちをかける懸念もあり、依然として厳しい状況にあると伺えた。

### 【後継者の状況】

「後継者あり」と回答した事業所が半数を超えた。その中で「後継者候補はいるものの今後どう進めていくかまでの計画はできていない」といった声が多かった。そのため、当会としても、引き続き事業承継に関するセミナーの開催や専門家派遣による事業承継計画書策定支援を展開していく必要があることが伺えた。

後継者 あり	8事業所	53.3%
後継者 なし	7事業所	46.7%

### 【売上高】

前年同期比・前期比ともに「売上が増加・不変」と回答した事業所が減少に比べ上回ってきており、今後の見通しにおいても、「増加する」と回答した事業所が多かった。その理由として「小規模事業者持続化補助金等の補助事業を活用し、販路開拓に向けた取り組みを行ったことで、売上の増加につながっている」といった声が寄せられた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
5	5	5	5	6	4	7	3	5

### 【採算】

前途【売上高】の結果に反して、採算が「好転した」と回答した事業所が少ない結果となっており、仕入単価（原材料の価格）が上がってきていることから、「不変・悪化」と回答した事業所が大半を占めた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
3	7	5	3	7	5	2	8	5

### 【仕入単価】

全業種において仕入単価が上昇していると回答した結果となった。特に、小売・サービス業では、「包装紙類を含む紙類の値上げが痛手となっている」といった声が多かった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
14	1	0	13	2	0	14	1	0

### 【販売（客）単価】

すべての業種において「不変」との回答が大半を占めたが、仕入単価の高騰から販売価格へ転嫁したことで「上昇」と回答した事業所も一部であった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
2	11	2	2	11	2	3	10	2

## 【資金繰り】

前回調査同様「不変・悪化」と回答した事業所が大半を占めた。先行きが見えない経営環境の中、新たな借入は控え、手許資金で何とかまわしている事業所が多かった。

### 前年同期比

好転	不変	悪化
2	8	5

### 前期比

好転	不変	悪化
2	8	5

### 今後の見通し

好転	不変	悪化
2	8	5

## 【雇用動向】

家族のみでの経営、従業員数の現状維持により「不変」と回答した事業所が大半を占める結果となったが、一部の事業所では、受注の増加に伴い、新たな雇用の確保に取り組んでいるといった声も寄せられた。また、新たな問題として、人口減少や労働人口の流出によって、地域内での人材確保が困難な状況になっているといった声も寄せられた。

### 前年同期比

増加	不変	減少
1	13	1

### 前期比

増加	不変	減少
1	13	1

### 今後の見通し

増加	不変	減少
1	14	0

## 【景況判断】

景況判断においては、前年度からの悪化傾向から変わっていないといった意味で「不変」、小規模事業者持続化補助金等の活用による販促活動や消費者のニーズに沿った新サービスを展開したことで、売上は増加しているものの仕入単価が上昇してきており、採算が取れず「不変」といった回答であった。以上のことから、総じて厳しい状況が続いていることが伺える結果となった。

### 前年同期比

好転	不変	悪化
1	12	2

### 前期比

好転	不変	悪化
1	13	1

### 今後の見通し

好転	不変	悪化
0	14	1

## 【経営上の問題点】

各事業所が抱える経営上の問題点としては、総じて、人口減少・高齢化による「需要の停滞」に不安を感じている事業所が多く、次いで「仕入単価の上昇」、「従業員の高齢化・人材不足からくる雇用問題」に懸念を示している事業所も多かった。また、平成31年10月から消費税引き上げが予定されている中で、「販売価格への転嫁難・軽減税率制度への対応に不安を感じている」といった声も多く寄せられた。

